

ラジオ関西「医療知ろう！」に出演

黒川先生が皮膚疾患の治療法について解説

ラジオ関西番組「寺谷一紀と！い・しょく・じゅう！」内の協会提供コーナー「医療知ろう！」に、12月17日に尼崎支部から黒川晃夫先生（くろかわ皮フ科）が「皮膚疾患を楽しく料理する！？」をテーマに生出演。番組リスナーから寄せられたアトピー性皮膚炎の新薬とその処方に関する質問にもわかりやすく解説した。



黒川晃夫先生（左端）と、アナウンサーの寺谷一紀さん（右奥）、元SKE48の犬塚あさなさん（手前）

当日の様子は、放送後でも番組ブログや協会ホームページ（<http://www.hhk.jp/topics/2020/1006-090000.php>）からもご覧いただけます。

第562回幹事会だより

12月24日（木）於：わたや整形外科

○尼崎支部の会員数

12/24 現在 医科 386 人、歯科 168 人

○医療をめぐる情勢と運動対策

会員意見実態調査結果から見る新型コロナウイルス感染拡大による影響、開業医の将来展望、患者署名の取り組みについて意見交流し、今後の支部企画案（医療安全管理研修会・事務講習会・税務経営研究会）と開催方法について議論した。

○次回日程 ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を延期します。

1/28（木）14:00～ ゆうこタリニッタ（阪急武庫之荘駅から徒歩10分）

お問い合わせはTEL 078-393-1805 沖野・石本まで

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

415号

2021年1月25日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階 兵庫県保険医協会 尼崎支部
TEL078-393-1801 FAX078-393-1802



新年のご挨拶

コロナを乗り越え 希望のある年に



兵庫県保険医協会尼崎支部長 綿谷茂樹

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり諸先生方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。また、日々地域医療に尽力されている先生方に、心より敬意を表します。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により、今までと全く異なる日常になりました。受診される患者は激減し、多くの医療機関は国民皆保険制度成立以来、経験したことのない危機的な経営状況におかれ、苦境に立たされています。

コロナ禍は日本社会の脆弱さと矛盾を明るみにしました。高い公益性と非営利が課せられている医療機関は、地域医療、医療保険制度を支える上で極めて重要な役割を果たしています。政府は医療機関へ減収補填を行い、国民への医療提供体制を保障する責任があります。

支部活動でも企画開催を見送ることになり、会員の先生方にご迷惑をおかけしました。まだまだ収束の見通しを立てることが難しい状況ですが、支部活動の課題に取り組むべく幹事の先生方とも尽力して参ります。また、新型コロナウイルス感染拡大阻止に向けた対策の強化を行いながら日常診療に取り組む支部会員の声を集めて、必要な情報を発信して参ります。

今年も変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今年もよろしくお願ひ致します 支部役員一同



歯科医院の感染防止対策を交流

昨年4月～5月の「緊急事態宣言」下の状況をはるかに超える新型コロナウイルス感染症の新規患者数一。尼崎支部は、昨年11月20日、第561回幹事会で阿部歯科・矯正歯科(院長 阿部勝也先生)を訪ねて、歯科医療機関における感染拡大防止対策の見学会を行い、幹事5人が参加した。

阿部幹事は、「協会歯科部会発行のミニリーフレットは待合室に置くだけでなく、各チェアへのそばに常備して、診療の際に患者一人一人に手渡して活用している」と報告。見学会では、冬場の換気について窓の開放はどの程度で効果が得られるのか、各医院でどのような工夫をしているかなどの情報交換も行った。阿部幹事からの報告を紹介する。

< 報告 >

万全な院内感染防止対策を目指して

阿部歯科・矯正歯科 阿部勝也



口腔外バキュームの説明をする阿部先生(写真中央)



介護施設でのPPE(個人用防護具)

当院では従来から抜歯や歯石除去など出血を伴う処置によるウイルス性肝炎など血液感染症に対する標準予防策として、マスク・ゴーグルの常時着用、患者さんごとの切削器具の消毒・グローブの交換などを実施し、設備ではセントラル方式のポセイドンによる電解中性機能水の供給、自動器具洗浄機、クラスB滅菌器、口腔外バキューム、プラズマクラスターなどを設置し、細菌感染リスクの抑制に力を入れてきました。

今回の新型コロナウイルスはマイクロエアロゾルによる飛沫感染が問題とのことなので、飛沫が生じやすい歯牙切削用の高速タービンや歯石除去のための超音波スケーラーなどの使

(3面につづく)

(2面のつづき)



歯科リーフレットを院内で有効活用



クラスB滅菌器

用を極力減らすなど、細心の注意を払って日常診療を大きく制約する感染防止策を取っています。それでも「歯科は危ない」という風評がマスコミを通じて流され、昨年春から来院患者は著しく減少しています。

当院ではさらに感染防止対策を講じ、待合室の密集を避けるための予約調整、待合室の雑誌・キッズルームのおもちゃの撤去、各診療室入口に除菌マットの設置、受付に自動現金精算機・カウンターへのアクリルパネル板の設置をしました。その後、新たにエアロゾル対策のためオゾン水生成機・オゾン発生装置・ジアイノを購入すると共に、診療中は常時窓を開けてサーキュレーターを用いて換気を図り、患者さんには洗口液でうがいをお願いしています。訪問歯科診療ではコロナ感染で重症化しやすい基礎疾患を持った高齢者が多いのでさらに注意が必要です。

「うつらない・うつさない」の考えのもとフェイスシールド・防護衣着用で診療にあたっていますが、この頃、防護衣の入手が困難になってきました。歯周病の定期的なPMTCがインフルエンザの予防に有効であり、歯科疾患が全身の健康に影響を与えるとのエビデンスが数多くあります。「新しい日常歯科臨床のあるべき姿」を引き続き模索していきたいと思えます。

「感染予防のカギ」ミニリーフレットをご活用ください

～早めの歯科治療と定期的な専門的口腔ケアは、感染予防のカギ～

協会歯科部会が発行したミニリーフレットは、歯科治療や歯科衛生士による専門的口腔ケアはウイルス感染予防に役立つことを、図表やイラストを用いて分かりやすく解説するとともに、歯科医療機関は院内感染防止対策を徹底しており、安心して受診するよう呼びかけていて、医療関係者、介護関係者、患者からも「とても役に立つ」と好評です。

待合室などでご活用ください。追加注文も無料で承っています。

ご注文・お問い合わせは、Tel 078-393-1809 歯科部会まで



歯科部会が発行した「ミニリーフレット」